火葬研認定講習受講者のこえ

＜認定講習コア科目＞

1. 火葬のはじまりと普及について（コア科目）

■受講者の感想

・明治初期の火葬禁止からの火葬再開と同時に現在の火葬場に近い形で整備され、そこから少しずつ宗教から離れ地域住民との協議を重ね、環境に優しく、周辺に配慮した火葬場が建設されるようになった過程が良く理解できた。これからの火葬場に於いては、個別化を図り、利用する側にも働く側にとってもより快適に利用できる施設が計画されつつあることを理解した。（2017年度受講生）

1. 法律の流れと関連法規について（コア科目）

■受講者の感想

・地域住民の心情や環境に配慮することが多く、建設に於いては、事前に計画概要の情報公開や環境アセスを行うなど周辺地域の理解が不可欠となっていることを学んだ。（2017年度受講生）

1. 火葬場の機能と火葬設備について（コア科目）

■受講者の感想

・無煙無臭に対する取り組みがこれほど古くから取り組まれていたにも関わらず、現在でも取り組む必要があるという難しさを実感した。これからの火葬炉は排ガスが防止でき、維持管理が容易でランニングコストが低く、業務の着くものが扱いやすいものが求められるのではないかと思われる。（2017年度受講生）

1. 火葬場の運営について（コア科目）

■受講者の感想

・どの事業所でも近年直葬や個人葬が目に見えて増えており、それと同時にトラブルも予想外のことが発生しています。あらゆる場面でもトラブルにも対応できるように研修を行い勉強しているつもりですが、それでもどう対応すれば良いのか現場で分からないケースも多々あります。現場だけではなく営業所や本社や行政とも相談しながら、今後も運営していきたいと思います。（2017年度受講生）

＜専門科目＞

⑦火葬場での業務について（専門科目：火葬業務）

■受講者の感想

・これから多死社会を迎えるにあたり、どういった心構えで対応していくか、現場としてどう準備していくか大変参考になりました。今日の研修を持ち帰り、現場での勉強会の項目に挙げたいと思います。ご遺族に心を向けた所作を考えることは、自分自身を見つめ直すのにも良い機会となり、経験豊富な職員にも改めて見つめ直して貰うためにも良い機会となると思うので、参考にさせて頂きます。（2017年度受講生）

・火葬件数が増えるにつれ、火葬業務もただこなすだけの作業に陥りやすいと思われます。しかしご遺族側に立ち、思いやりと配慮や細心の注意を払って接することが大切だと考えます。今後火葬場での多様なニーズが求められると考えられるが、遺族が「選択できる接遇（内容）」も必要になるかも知れません。ただ、時代が移り変わっても、大切な人を亡くされた感情は変わることはないと思います。それを心に刻み日々精進したいと思います。（2017年度受講生）

・今回の二人の先生の講習はどちらも斎場の現場を長く勤め、今現場を纏めている責任者の立場として大変身につまされ、耳の痛い話で反省する事ばかりでしたがとても勉強になりました。はじめの講習で「グリーフ」「グリーワフーク」「グリーフケア」という言葉、その意味を初めて知りまして新しい世界と遭遇した感じで驚きでした。「遺族の気持ちに寄り添ってその気持ちを理解し火葬業務をして行く」口では簡単に言えますが日々実行していく難しさを新たに認識させられた感じでした。次の講習では、葬儀社との考え方の違いの溝の深さ、気持ちの交流の無さ等に愕然とすると共に反省・改善の実行を痛感致しました。又仕事場での立ち振る舞い等に付いても、正式な作法の教育を受けてないと言え今後勉強をして改善仕手行きたいです。（2016年度受講生）